

ボランティア活動報告 2017

東日本大震災被災者神戸招へい事業 2018 ～1日目～

1月16日から1月17日にかけて、ボランティアチームTASKIの学生5名が兵庫県神戸市を訪れました。これは、ひょうごボランティアプラザが東日本大震災被災地支援の一環として行った東日本大震災被災者招へい事業で、名取市の愛島東部仮設住宅で生活する皆さんと一緒に参加しました。今回は1日目の様子をお届けします。

1日目は初めに阪神・淡路大震災で特に火災の被害が大きかった地区である長田の街を見学しました。震災当時まで下町として栄えていた長田の街でしたが、震災後はなかなか震災前のように人が集まりにくくなったと聞き、一度壊れてしまったコミュニティを再度作り直すのは難しい課題であると感じました。



(新長田地区の震災復興シンボルとしてつくられた鉄人28号)

その後、当時実際に避難所になった元小学校である『ふたば学舎』で、今回参加した仮設住宅の住民さんや学生と、現地兵庫で支援活動を行っている方や行政の方などとの意見交換を行いました。また、その後の交流会では、ひょうごボランティアプラザの職員の方々や、以前仮設住宅での夏祭りにて竹灯ろうを行ってくださった団体の皆さんなど多くの方に歓迎していただきました。



(当時実際に避難所になった元小学校の『ふたば学舎』)



(ふたば学舎内の「神戸アーカイブ写真館」で写真や記録を残し、
伝承を続けることについてお話を聞きました。)



(意見交換会の様子)

文：人間心理学科 4年 伊藤ちひろ
(連携交流課 ワークスタディスタッフ)